平成 28 年度広島市立図書館主要事業（案）

28 年度事業のポイント

- ①平成 28 年(2016 年)は、「読書週間」が始まって 70 回目を迎えることから、「読書」をテーマとして事業を実施する。
- ②「広島市子どもの読書活動推進計画(第三次)」がスタートすることから、子どもたちへの読書支援を積極的に実施する。

1 被爆体験継承事業(中央図書館)

昨年は被爆 70 周年の節目ということで、「原爆・平和」に関する証言集や文学・ノンフィクション、写真集などが数多く復刊、発行された。これらの図書を被爆直後から読み継がれてきた本と共に展示し、リストを配布することで、今一度本を通して原爆を知らない世代が被爆について考え、その体験を継承していくための事業とする。

- (1) 企画展「原爆を伝える一次世代につなぐヒロシマ・ナガサキの本一」(仮)
- (2) 講演会「文学作品で伝える原爆」(仮)
- (3) 本を紹介し合う会

2 企画展「広島生まれの児童雑誌『ぎんのすず』創刊 70 周年展」(中央図書館)

『ぎんのすず』とは、戦後すぐ被爆地広島から全国の子どもたちに発信した月刊の学年別教育雑誌である。火野葦平、大田洋子、サトウハチロー、西条八十、長谷川町子ほか多数の有名な作家・画家・漫画家が寄稿し、最盛期には全国で 120 万部に達するなど、当時トップレベルの雑誌だった。昭和 21 年(1946 年)8 月 6 日に創刊され、昭和 28 年(1953 年)まで発行された。

- (1) 企画展「広島生まれの児童雑誌『ぎんのすず』創刊 70 周年展」(仮)
- (2) 講演会「戦後児童文化と『ぎんのすず』」(仮)
- (3) 講座「『ぎんのすず』の作家たち」(仮)

3 漱石没後 100 年、生誕 150 年記念企画展(中央図書館)

平成 28 年(2016 年)は夏目漱石の没後 100 年、平成 29 年(2017 年)は生誕 150 年にあたる。昨年 6 月に有志による「『漱石と広島』の会」が発足し、漱石と広島とのつながりについて研究を重ねている。当館の広島文学資料室対象作家に、漱石の弟子である鈴木三重吉(小説家・児童文学者)がいることなどから、「『漱石と広島』の会」と共催して実施する。

- (1) 企画展「漱石と広島」(仮)
- (2) 講演会「夏目漱石と広島」(仮)

4 闘病記コーナー開設 10 周年記念企画(中央図書館)

健康・医療・介護に関する図書等を収集・活用している「闘病記コーナー」が開設 10 周年を迎えることから記念事業を実施する。

- (1) 企画展「闘病記コーナー開設 10 周年記念」(仮)
- (2) 講演会「図書館で健康・医療情報を得るには」(仮)
- (3) 医療情報検索講座「やって納得！健康情報検索講座」(仮)

5 こども図書館所蔵「ベル・コレクション」デジタル化事業(こども図書館)

「ベル・コレクション」とは昭和 24 年(1949 年)、当時の CIE 顧問ハワード・ベル氏の仲介でアメリカ国内から寄贈された子どものための物語・絵本の洋書群である。平成 27 年(2015 年)度に解題目録を作成しているが、図書の劣化が激しいため、閲覧用に特徴的な 100 点を選んでデジタル化し、ホームページで公開する。

6 子どもたちへの読書支援～「広島市子どもの読書活動推進計画(第三次)」スタート～

こども図書館

- ・家庭読書アドバイザー派遣事業 ステップアップ講座の実施
- ・「発達段階別図書リスト」の作成・配布
- ・「ほんはともだち ‘16」の発行・配布
- ・ボランティア研修の実施

中央図書館

- ・中・高校生向け「図書館通信(仮)」の発行
- ・中・高校生向け「職業ハッケン!!コーナー」の充実
- ・高校生向け出前ブックトークの開催
- ・「高校生ビジネスプラン作成講座」の開催

区図書館等

- ・青少年向けオススメ図書の展示
- ・おはなし会等の実施

7 『都志見往来日記・同諸勝図』を漫画で紹介する事業(湯来河野閲覧室)

浅野文庫所蔵『都志見往来日記・同諸勝図』(岡岷山作)に湯来地区が含まれていることから、湯来河野閲覧室では、平成 26 年(2014 年)度から「江戸の湯来」施策を展開している。今回は第 3 弾。親しみ易い漫画で小学生以下も対象に郷土に触れる機会を提供する。作者は地元在住の漫画家。

- (1) 漫画冊子「岡岷山 写生旅行記」の発行
- (2) トークイベント「江戸湯来漫画トークと朗読会」